

## 会 議 録

名 称：平成26年度北九州市地方独立行政法人評価委員会（第1回）

開催日時：平成26年7月3日（木）10：00～12：00

開催場所：北九州市役所5階 特別会議室A

- 次 第
- 1 総務企画局長の挨拶
  - 2 平成26年度 評価委員会スケジュールについて
  - 3 北九州市立大学学長との意見交換について
  - 4 平成25年度 業務の実績に関する報告について
  - 5 評価調書の作成について

[開会]

1 総務企画局長の挨拶

2 平成26年度 評価委員会スケジュールについて（資料2）

○事務局より本年度のスケジュールについて説明

3 北九州市立大学学長との意見交換について

○近藤学長より「平成25年度計画に係る主な取組み」について説明

○質疑応答

〔質疑応答 内容〕

（委員）

学校教育法第93条の問題は、平成26・27年度の中期計画を行っていく上で、学内でどういう方針で臨まれるのでしょうか。

（大学学長）

本学の場合、平成17年度の法人化の際に、人事等に関して教育研究審議会と学部教授会のすみ分けを既に行っており、教授会で進んでいた部分のほとんどが教育研究審議会を通過出来るような形になっています。ただ、実質的な学部長任命等について見直しを行う必要があると考えています。

現在、人事関係において、学内理事を中心に「学長補佐体制をどのように行うか」という審議を行う組織人事委員会及び学内理事を含めた形での予算方針を行うシステムとしての予算方針会議を設置し、人事・予算関係の部分に関しての体制づくり、規程・内規の見直しにむけて取り組んでいます。

(委員)

教育の改革を進めていく中での教員へのサポート体制について、特別な措置を考慮してもらえるのでしょうか。

(大学学長)

現段階では、国際環境工学部のTAやEAといった一般的な範囲のみです。今後は他の学部及び研究科において特任教員に来ていただく等のサポート体制を作っていくなど、これから検討していく段階です。特に大学院教育において必要になってくる部分があること、学士課程においてはPBL（課題解決型学習）やアクティブラーニング等についてもサポート体制をこれから研究していこうと考えております。

(委員)

ESDプログラムや就職支援において、専門の方は従事しているのでしょうか。

(大学学長)

ESDプログラムに関しては、専門の方を特任教員という形で複数受け入れています。

(委員)

継続性の担保は行っていないのでしょうか。

(大学学長)

この5年間の中にどれほどの業績・必要性等を残すかによって、検討していき、いい方向で進めていきたいと思えます。

(委員)

教育情報システムについては、独自開発をされているのでしょうか。

(大学学長)

本学にあったシステムを教員・職員等で試行錯誤しながら作っている段階です。副専攻の学生たちの成績管理やポートフォリオ、学習の成果の記述などから始めていく予定です。

(委員)

卒業者の就職先が、北九州市内で就職している学生が増えているのでしょうか。あるいは、出身地の地元に戻って就職する学生が増えているのでしょうか。

(大学学長)

市内関係に関しては、市内から入ってきた同数くらいが市内に就職をしていくという状況はあまり変わっていないと思います。ただし、学部によっては差異があり、地域創生学群の学生は、「北九州に残りたい」という学生が増えていると聞いています。4年間の学生生活の中で、地域での活動というのが非常に密になっていることから、市に対する愛着が生まれ始めているのかなという気がしています。ただ、自分に適した業界を知らない学生もいるため、商工会議所を一緒になってインターンシップに取り組み、情報の共有を図っ

ていく必要があると考えています。

(委員)

北九州市内の入学者が全入学者の2割(300人強)ですが、このことについて、どのように考えていらっしゃいますか。市内の高校を卒業した学生がもう少し増えていいものではないでしょうか。

(大学学長)

単科制の専門大学とは異なり、本学は総合大学ですので、様々な形での間口があると考えています。よって、必ずしも北九州に限定して学生を受け入れるのではなく、出口のところで、北九州に残って欲しいということで、地域に貢献できると考えています。

(委員)

認知度向上プロジェクトと創立70周年事業について、具体的にご教示いただきたい。

(大学学長)

70周年に向けて、この2つを少し合体させて運営しています。70周年にむけて、ブランドのワーキングを立ち上げ、大学のシンボルマークやロゴについて、自由に検討しております。

また、全ての取組が認知度につながることから、一つのプロジェクトだけでなく全学的な取組が必要だと考えています。

(委員)

国際環境工学部の志願者数が減った理由は何でしょうか。

(大学副学長)

過去3年間は、志願者数は増えていましたが、今年度は入試科目が大幅に変更されたことで、浪人生にとって非常に不利な状況になったためだと考えます。

(委員長)

国際環境工学部は、大学の目玉のひとつであるため、外部の受託研究の部分も少し減りつつあることや志願者数の減少について、今より落ちないで上向かせるような新たな努力・方策が必要ではないでしょうか。

(大学副学長)

研究のアクティビティをあげないといけないだろうということで、予算に対しても、ある程度重点分野において研究開発等を行っていく必要があると考えています。環境技術研究所の中でも事業化できそうなものに重点的に研究配分、教員の研究費を集めてそこに重点的に流そうとしていますので、数年後には結果が出てくると期待しています。

(大学学長)

様々な形で、可能性のあるところに関しては、外部資金も含めて、研究に関してチャレ

ソジはしていますが、非常に苦しいのは事実であり、ご指摘のあった入試の問題と外部資金の問題に関しては、大学として真剣に取り組んでいくという姿勢は変わりないご理解いただければと思います。

(委員長)

70周年という記念の事業や老朽化校舎の改善ということがありますが、財政面で努力するというようなことはあるのでしょうか。

(大学事務局)

収入の確保でいうと、授業料や市からの運営交付金以外に外部資金の獲得を目指していくこと、同窓会や後援会からの募金活動、そういうのにも一生懸命取り組んでいきたいと  
思います。また、支出について経営改善の見直しを行い、経費の節減に取り組み、大学の  
経営基盤を強化していきたいと考えております。

(委員)

市のさまざまな課題に対する解決に、大学の教員や学生が寄与していける地域の文化、  
あるいは高等教育を支えていく基盤、市の文化的な活動施設等との連携などが今後必要に  
なるのではないかと思います、いかがでしょうか。

(大学学長)

博学連携については現在も実施している教員がいますが、経営等を含めた一歩踏み込んだ  
連携に関しては、今後考えていきたいと思っています。

〔質疑応答 終了〕

#### 4 平成25年度 業務の実績に関する報告について(資料3、3-1)

○大学事務局より平成25年度業務の実績に関して報告

○質疑応答

〔質疑応答 内容〕

(委員)

大学院の博士課程の定員や定員充足率の問題については、もう問題はないという認識で  
よろしいでしょうか。

(大学事務局)

本年度はどの研究科におきましても、定員充足率が0.7を上回っており、年度計画を概  
ね順調に実施していると判断しました。我々としても非常に大学院に対しては、今後、整  
備なりを進めていく必要があると考えています。

(委員)

商工会議所と連携されて、インターンシップの受入なども推進されたということですが、インターンシップの経験が直接的に反映されて就職につながっているデータというのはあるのでしょうか。就職率の向上にそういうインターンシップの貢献というものがデータに現れてくるのでしょうか。

(大学事務局)

データがあるかどうかを確認させていただきます。ただ、インターンシップは、行った先に直接就職するというよりも、インターンシップで社会経験を積むということで、社会人になるという意欲なり、実体験をすることによって、どういったものを理解してもらえるところの意義が非常に大きい部分があります。あくまでも学習機会を提供するということになっていると思います。

(委員)

大学の自己評価で、「年度計画を十分に実施できていない」とされたところは、実質倍率が2.6倍ということで、目標を下回ったためだと思いますが、広報活動とかで、特に何か足りなかったという点がありましたら、教えていただきたいと思います。

(大学事務局)

広報活動そのものは、例年と変わらずに行っています。前年度行ったオープンキャンパスでのアンケート等を参考にしながら翌年度の取組をやったり、出張ガイダンスに行って参加者が多い少ない、あるいは新たなところで開拓する必要を判断すれば、開拓を行うということで、非常に積極的に取り組んでいます。その辺りに対しては、大学として活動が鈍かったというふうな考えはございません。

ただ、高校生の新学習指導要領に基づく学生が来年度から入学してくるので、その関係で今までとは違った入学の動きがあったのではないかという考えもございます。留年するよりも今年何とか入ったほうがいいのではないかという動きも反映しているのかもしれない。

〔質疑応答 終了〕

## 5 評価調書の作成について(資料4~5-1)

○事務局より評価調書の記入方法について説明

〔事務局より次回の委員会のスケジュール等について説明し、閉会〕